

令和7年4月から2学期制に移行します



どうして2学期制にするの？

茨城県から今年6月に、県立高等学校において令和7年度入学者選抜からWeb出願システムを導入することが公表されました。Web出願では、1月8日から1月29日までの間に志願者情報を保護者が入力することになります。志願者情報には志願先高校名を記入するため、これまでより早い時期から進路先について話し合う必要があります。2学期制であれば面談時に10月の成績を使用することになり、より直近の資料で効果的な進路指導が可能となるため、2学期制に移行することにしました。



2学期制になると何が変わるの？

より子どもたちの実態に合わせた進路指導が可能となります。

面談時期が早まることから、3学期制では、面談の資料として1学期（7月）の成績を使用することになります。しかし、2学期制になると、前期（10月）の成績を資料として面談を実施することができるため、子どもたちの実態に近い評価に基づいた、より効果的な進路指導が可能となります。

【県立高等学校の入試の流れ】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	1学期	2学期					3学期	
3学期制	通知表					通知表	面談 願書作成	出願 上旬
	通知表				面談	通知表	1/8~1/29 願書入力（受付） 面談	出願 上旬
	前期			後期				
2学期制				通知表	面談		1/8~1/29 願書入力（受付） 面談	出願 上旬

※「1/8~1/29」は令和7年度入学者選抜の場合

これまで以上に個に応じたきめ細かな対応ができるようになります。

長期休業日前に教員に時間的にゆとりが生まれることにより、長期休業期間中の学習や生活についての事前指導や、子どもたちや保護者への教育相談を充実させることができます。また、始業式・終業式が1回ずつ少なくなるため、十分な学習の時間を確保し、時間的・精神的にゆとりのある学習計画のもと、子どもたち一人一人の習熟度に応じた学びの充実を図ることができます。

通知表が3回から2回になります。

子どもたちの学習意欲を向上させるために、次のような取組をします。

- ① 子どもたちに対し長期休業日前等に面談を実施し、これまでの学習状況や生活状況について資料をもとに説明しながら、じっくりと振り返りを行い、長期休業期間中の目標及び学習計画を決めます。
- ② 保護者に対し7月中に面談を実施し、子どもの学習状況や生活状況を伝えるとともに、夏季休業中の目標及び学習計画について共有します。(①と②を三者面談として行う場合もあります。)
- ③ 単元テストや小テストを活用し、テスト返却時等、機会をとらえて子どもたちに声掛けをします。

【1年間の流れ】テスト回数やテスト時期については、各学校によって異なり、おおよその流れを示しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
	1学期				2学期					3学期													
3 学期制	学年始休業日	始業式			期末テスト	通知表	終業式	夏季休業日	始業式			中間テスト	期末テスト	通知表	終業式	冬季休業日	始業式	3年生 学年末テスト	1.2年生 学年末テスト		通知表	修了式	学年末休業日
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
	前期						後期																
2 学期制	学年始休業日	始業式			中間テスト		夏季休業日		期末テスト	通知表	終業式	3連休	始業式			中間テスト	冬季休業日	3年生 学年末テスト	1.2年生 学年末テスト		通知表	修了式	学年末休業日
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
	現行（3学期制）						令和7年度から（2学期制）																
学期	1学期	4月1日～7月31日					前期	4月1日～10月第2月曜日															
	2学期	8月1日～12月31日					後期	10月第2月曜日の翌日～3月31日															
	3学期	1月1日～3月31日																					
通知表	学期末 3回						学期末 2回																

※ 授業日数や長期休業期間は変更ありません。

※ 前期終業式の日、後期始業式の日、給食を提供します。(前期始業式の日、修了式の日、給食の提供はありません。)



2学期制について教えて

Q 他に2学期制にはどのようなよさがありますか。

授業との調整を図りながら、長期休業日直前まで、行事等を実施しやすくなります。一つ一つの行事の間隔があくことで、ゆとりをもって準備することができます。また、授業時数が増えることで、各学校において環境教育や英語教育に力を入れるなど、創意工夫を活かした特色ある学校づくりを推進することができます。